



平成23年1月期 第1四半期決算短信

平成22年6月11日

上場会社名 サイボウズ株式会社 上場取引所 東証第一部
 コード番号 4776 URL <http://www.cybozu.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)西端 慶久
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 (氏名)石井 和彦 TEL (03)5805-9035
 経営管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成22年6月11日 配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年1月期第1四半期の連結業績 (平成22年2月1日～平成22年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年1月期第1四半期	1,559	△30.9	512	235.6	514	237.4	292	277.4
22年1月期第1四半期	2,257	—	152	—	152	—	77	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年1月期第1四半期	554	71	554	63
22年1月期第1四半期	148	07	147	49

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年1月期第1四半期	6,111	4,511	71.2	8,244 78
22年1月期	5,697	4,248	71.7	7,754 42

(参考) 自己資本 23年1月期第1四半期 4,349百万円 22年1月期 4,087百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年1月期	— —	0 00	— —	103 00	103 00
23年1月期	— —	— —	— —	— —	— —
23年1月期(予想)	— —	0 00	— —	464 00	464 00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 有

3. 平成23年1月期の連結業績予想 (平成22年2月1日～平成23年1月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
第2四半期連結累計期間	2,750 (△30.0)	610 (611.5)	610 (645.0)	217 (91.6)	411 31
通期	5,350 (△19.5)	780 (83.4)	780 (79.6)	330 (16.8)	625 50

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
[新規 1社(社名 才望子信息技术(上海)有限公司)]
[(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
[(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
- ② ①以外の変更 : 無
[(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]
- (4) 発行済株式数(普通株式)
- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- | | | | |
|-------------|----------|--------|----------|
| 23年1月期第1四半期 | 527,578株 | 22年1月期 | 527,098株 |
|-------------|----------|--------|----------|
- ② 期末自己株式数
- | | | | |
|-------------|----|--------|----|
| 23年1月期第1四半期 | 一株 | 22年1月期 | 一株 |
|-------------|----|--------|----|
- ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)
- | | | | |
|-------------|----------|-------------|----------|
| 23年1月期第1四半期 | 527,184株 | 22年1月期第1四半期 | 523,284株 |
|-------------|----------|-------------|----------|

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には、さまざまな不確実要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠しての投資等の判断を行うことは差し控えてください。なお、業績予想の背景、前提条件等については3ページからの【定性的情報・財務諸表等】をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、景気回復の兆しが見られたものの、未だ雇用環境は厳しく、国内需要の回復力もなお弱い状況にあり、先行きが不透明な状況が続いております。

情報サービス産業においても、引き続き多くの企業が費用対効果を慎重に検討した上で情報設備投資を行っていることから、依然として厳しい経営環境にあります。

このような状況のもと、当社グループは、前連結会計年度に引き続き、ソフトウェア事業のグループウェア部門への経営資源の集中、国内グループウェア市場の磐石化、海外進出の基盤作り、に注力しております。

グループウェア部門への経営資源の集中といたしましては、引き続き、グループ再編を進めていく予定です。

国内グループウェア市場の磐石化といたしましては、ビジネスシーンでの利用用途の多いスマートフォン対応として、平成22年4月に大規模向けグループウェア「サイボウズ ガルーン 2」と連携するWindows phone用シンクアプリケーション「サイボウズモバイル KUNAI for Windows phone」と、BlackBerry用シンクソフト「サイボウズモバイル Sync for BlackBerry」（6月中旬以降KUNAIブランドへ名称統一予定）を発売開始いたしました。当製品により、グループウェアのデータをスマートフォンに同期することが可能となり、社外からもデータを迅速に閲覧・処理することができます。

また、同じく平成22年4月にソフトバンクモバイル株式会社（本社：東京都港区 代表取締役社長兼CEO：孫 正義 以下 ソフトバンクモバイル）と当社は、中小企業の生産性向上を目指し業務提携を行うことで合意いたしました。併せて、サイボウズの中小企業向けSaaSサービス「かんたんSaaS」の全アプリケーションを、iPhone等のタッチデバイスに対応させました。

海外進出の基盤作りといたしましては、日・英・中対応SaaS型グループウェア「Cybozu Benko System」（旧表記「サイボウズ弁公系統」を欧米進出のタイミングに併せ変更）のシステム内のすべての日時情報を、各ユーザーが選択した国・地域の標準時に換算して登録／表示できるようタイムゾーン対応を進め、平成22年5月に発表いたしました。また、今後は、新たな欧米現地パートナーとの販売契約締結により、アジアだけでなく欧米も含めた日系進出企業様への販売、サポート体制を構築していきます。

このような状況下において、当第1四半期連結会計期間の連結業績については、連結子会社が前年同期に比べ減少したこと等から連結売上高は1,559百万円（前年同期比30.9%減）となりました。また、前年同期に赤字であった連結子会社が連結からはずれたこと等から営業利益は512百万円（前年同期比235.6%増）、経常利益は514百万円（前年同期比237.4%増）、四半期純利益は292百万円（前年同期比277.4%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①ソフトウェア事業

ソフトウェア事業には、当社、サイボウズ・ラボ株式会社、才望子信息技术（上海）有限公司、サイボウズ総合研究所株式会社のソフトウェア関連部門、ユミルリンク株式会社のソフトウェア関連部門、及び株式会社ジェイヤドが該当します。かんたんシリーズやリモートサービスの売上が堅調に推移したこと等から、当第1四半期連結累計期間のソフトウェア事業の売上高は1,361百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は486百万円（前年同期比43.9%増）となりました。

②ソリューション事業

ソリューション事業には、サイボウズ総合研究所株式会社のシステムインテグレーション関連部門、ユミルリンク株式会社のネットワーク関連部門、サイボウズ・メディアアンドテクノロジー株式会社が

該当します。ソリューション事業を構成していた連結子会社が減少したこと等から、当第1四半期連結累計期間の売上高は211百万円（前年同期比38.7%減）、営業利益は25百万円（前年同期△18百万円）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債、純資産の状況

当第1四半期連結会計期間において、現金及び預金が増加したこと等により、資産の部は前連結会計年度末に比べ414百万円増加し、6,111百万円となりました。

また、負債の部は主に未払法人税等が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ151百万円増加し、1,600百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末より347百万円増加し、3,396百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結会計期間における営業活動による資金収支は、439百万円の収入（前年同期比263百万円の収入増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結会計期間における投資活動による資金収支は、32百万円の支出（前年同期比149百万円の支出減）となりました。これは主に、前年同期に支出があった事務所増床に伴う敷金の差入れによる支出、及び関係会社株式の取得による支出がなかったこと等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結会計期間における財務活動による資金収支は、85百万円の支出（前年同期比219百万円の支出増）となりました。これは主に、借入れによる収入が減少したこと等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月16日に公表しました平成23年1月期の連結業績予想につきましては、平成22年6月11日に修正を行っております。

なお、当社は配当に関する方針として、これまで毎年の個別当期純利益の10%を目処とした配当性向とさせていただいておりましたが、個別当期純利益の50%を目処とした配当性向とさせていただくことに方針を変更いたしました。これは、配当による定期的な株主様への還元をできるだけ増やして、株主の皆様にごに当社株式を長期に保有して応援していただきたい、との思いから、配当性向の見直しを進め、配当性向を個別当期純利益の約50%まで引き上げても成長のための十分な投資資金を確保できるまでに手元資金が増加した、と判断したことによるものです。

詳細については、平成22年6月11日発表の「業績予想の修正、および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(新規) 才望子信息技术(上海)有限公司

当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありました才望子信息技术(上海)有限公司(ソフトウェア事業)につきまして、重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して、一般債権の貸倒見積高を算定しております。

・繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法により算定しております。

・固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①「工事契約に関する会計基準」等の適用

受注制作に係る収益の計上基準については、従来完成基準を適用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成19年12月27日 企業会計基準第15号)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成19年12月27日 企業会計基準適用指針第18号)を適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した受注契約から、当第1四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる受注契約については工事進行基準を適用し、その他の受注契約及び重要性が低い受注契約については工事完成基準を適用しております。工事進行基準を適用する受託開発の当期末における進捗度の見積もりは、原価比例法によっております。この変更による損益への影響は軽微であります。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年4月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,566,886	3,218,570
受取手形及び売掛金	909,390	768,524
たな卸資産	106,151	104,474
繰延税金資産	34,472	43,545
その他	132,278	160,148
貸倒引当金	△2,536	△2,212
流動資産合計	4,746,641	4,293,052
固定資産		
有形固定資産	215,746	190,563
無形固定資産		
のれん	228,730	266,681
ソフトウェア	69,884	70,601
その他	97,889	74,090
無形固定資産合計	396,503	411,373
投資その他の資産		
投資有価証券	346,991	424,558
繰延税金資産	79,060	91,569
その他	331,057	332,336
貸倒引当金	△4,007	△4,065
関係会社投資損失引当金	—	△41,461
投資その他の資産合計	753,102	802,937
固定資産合計	1,365,352	1,404,874
資産合計	6,111,993	5,697,927
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,174	40,568
短期借入金	367,562	394,908
1年内返済予定の長期借入金	49,710	52,236
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払法人税等	203,275	38,891
役員賞与引当金	—	6,000
賞与引当金	3,171	—
その他	790,237	757,544
流動負債合計	1,480,130	1,310,148
固定負債		
社債	20,000	30,000
長期借入金	73,426	86,312
その他	27,090	23,047
固定負債合計	120,516	139,359
負債合計	1,600,647	1,449,507

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年4月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	613,810	606,802
資本剰余金	976,765	969,757
利益剰余金	2,765,358	2,512,408
株主資本合計	4,355,934	4,088,968
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△4,844	—
その他有価証券評価差額金	△1,325	△1,628
評価・換算差額等合計	△6,170	△1,628
新株予約権	1,500	1,500
少数株主持分	160,082	159,578
純資産合計	4,511,346	4,248,419
負債純資産合計	6,111,993	5,697,927

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日)
売上高	2,257,724	1,559,224
売上原価	725,090	215,316
売上総利益	1,532,634	1,343,907
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	409,784	283,757
業務委託費	96,205	37,869
貸倒引当金繰入額	103,734	373
のれん償却額	77,870	47,265
その他	692,233	461,811
販売費及び一般管理費合計	1,379,828	831,078
営業利益	152,805	512,829
営業外収益		
受取利息	1,058	891
持分法による投資利益	2,937	1,922
受取手数料	883	667
その他	1,960	1,582
営業外収益合計	6,839	5,064
営業外費用		
支払利息	6,783	2,817
その他	382	594
営業外費用合計	7,165	3,411
経常利益	152,479	514,481
特別利益		
貸倒引当金戻入額	3,275	50
特別利益合計	3,275	50
特別損失		
投資有価証券評価損	4,495	—
固定資産除売却損	—	777
事務所移転費用	—	138
特別損失合計	4,495	915
税金等調整前四半期純利益	151,259	513,616
法人税、住民税及び事業税	175,030	199,304
法人税等調整額	△56,163	21,374
法人税等合計	118,866	220,679
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△45,087	503
四半期純利益	77,481	292,432

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	151,259	513,616
減価償却費	195,004	39,182
のれん償却額	77,870	47,265
投資有価証券評価損益(△は益)	4,495	—
持分法による投資損益(△は益)	△2,937	△1,922
貸倒引当金の増減額(△は減少)	67,657	266
受取利息及び受取配当金	△1,058	△891
支払利息及び社債利息	6,783	2,817
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,549	3,171
投資損失引当金の増減額(△は減少)	—	△41,461
その他の引当金の増減額(△は減少)	△28,178	—
売上債権の増減額(△は増加)	1,228	△126,196
たな卸資産の増減額(△は増加)	66,508	△1,676
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,929	3,335
未払金の増減額(△は減少)	△129,480	1,212
前受金の増減額(△は減少)	△62,805	61,746
その他	△37,551	△30,867
小計	278,317	469,598
利息及び配当金の受取額	962	1,058
利息の支払額	△7,213	△1,581
法人税等の支払額	△95,800	△29,107
営業活動によるキャッシュ・フロー	176,266	439,968
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△49,308	△18,055
無形固定資産の取得による支出	△45,794	△45,162
関係会社株式の取得による支出	△64,700	—
事業譲渡による収入	68,000	—
貸付けによる支出	△40,898	—
貸付金の回収による収入	4,200	30,758
敷金及び保証金の差入による支出	△58,355	—
敷金及び保証金の回収による収入	3,750	—
その他	1,019	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△182,086	△32,455

(単位：千円)

	前第1 四半期連結累計期間 (自 平成21年 2月 1日 至 平成21年 4月30日)	当第1 四半期連結累計期間 (自 平成22年 2月 1日 至 平成22年 4月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	20,000	△27,346
長期借入れによる収入	160,000	—
長期借入金の返済による支出	△89,813	△15,412
社債の償還による支出	△10,000	△10,000
配当金の支払額	△22,210	△54,291
株式の発行による収入	70,829	14,016
その他	5,286	7,164
財務活動によるキャッシュ・フロー	134,092	△85,868
現金及び現金同等物に係る換算差額	168	755
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	128,440	322,399
現金及び現金同等物の期首残高	2,434,001	3,048,770
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	25,015
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,562,441	3,396,186

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年2月1日 至 平成21年4月30日)

	ソフトウェア事業 (千円)	通信事業 (千円)	ソリューション事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,345,525	571,187	341,011	2,257,724	—	2,257,724
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,214	—	3,249	5,464	(5,464)	—
計	1,347,740	571,187	344,261	2,263,188	(5,464)	2,257,724
営業利益又は 営業損失(△)	338,169	△168,171	△18,893	151,103	1,701	152,805

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品・サービスの系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分の属する主要な製品・サービス

事業区分	主要製品・サービス
ソフトウェア事業	グループウェア、データベースソフト等
通信事業	通信サービス、ビリングソリューション
ソリューション事業	ネットワークソリューション、運用、監視、システムインテグレーション、ソリューションコンサルティング、シンククライアントビジネス

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)

	ソフトウェア事業 (千円)	ソリューション事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,358,209	201,014	1,559,224	—	1,559,224
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,642	10,136	13,778	(13,778)	—
計	1,361,852	211,151	1,573,003	(13,778)	1,559,224
営業利益	486,624	25,904	512,529	300	512,829

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品・サービスの系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分の属する主要な製品・サービス

事業区分	主要製品・サービス
ソフトウェア事業	グループウェア、データベースソフト等
ソリューション事業	ネットワークソリューション、運用、監視、システムインテグレーション、ソリューションコンサルティング、シンクライアントビジネス

※ 前連結会計年度において、通信事業を唯一構成する株式会社インフォニックスが連結の範囲から除外となったことから、当連結会計年度より当社グループから「通信事業」はなくなりました。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間において、本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間において、海外売上高は連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

(千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
前連結会計年度末残高	606,802	969,757	2,512,408	4,088,968
当第1四半期連結会計期間末までの変動額				
剰余金の配当			△54,291	△54,291
四半期純利益			292,432	292,432
新株の発行 ※1	7,008	7,008		14,016
連結範囲の変動 ※2			14,807	14,807
当第1四半期連結会計期間末までの変動額合計	7,008	7,008	252,949	266,965
当第1四半期連結会計期間末残高	613,810	976,765	2,765,358	4,355,934

※1 当第1四半期連結会計期間に新株予約権(96個)について権利行使がありました。

※2 当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありました才望子信息技术(上海)有限公司につきまして、重要性が増したため連結の範囲に含めております。